

# 視点

## 災害対策と対応



岡山県経営者協会  
専任コンサルタント

中野 花都江 (社会保険労務士)

西日本豪雨災害は、私たちの日常に大きな爪痕を残しました。生活基盤を破壊された人々は、短期間に様々な決断を迫られました。安全神話が根付く岡山県では誰もかれもが自然の猛威に驚愕しました。酷暑の中、自衛隊やボランティアの皆さんが被災地に来て、土砂や家具等を必死に片付けて下さる映像には感謝の気持ちしかありません。また、弁護士会、医師会、動物愛護協会その他様々な組織からの支援の輪も広がりました。毎年のように発生する災害に対して、支援ノウハウを蓄積して全国で展開していることもわかりました。こうした組織力も素晴らしいものです。

被災は誰にでも起きるものだと思います。テレビから繰り返された『命を守る行動』とは、具体的に何でしょう。

私自身の事を振り返ってみます。岡山県南では7月5日(木)午後ゲリラ豪雨があり、6日(金)は朝から雨天、その後雨脚が強くなり止むことなく8日(日)の夜まで降り続けました。私は6日(金)15:45に初めて岡山市のエリアメールを事務所で受けました。福渡学区への避難勧告発令で、土砂災害の危険があるという内容です。同日23:10には岡山県に大雨特別警報が発令され、同時刻、自宅のある瀬戸内市にも避難勧告が発令されました。さらに2時間ほど経った7日(土)1:45緊急避難指示が発令されましたが、4:00に緊急避難指示が解除、6:30に避難勧告が解除、9:00に避難準備も解除され、あっという間に日常が戻ってきました。しかし、そ

の間に真備町は屋根まで冠水し、報道されなかった様々な地域が被災していたのです。

不測の事態が起きた時には初動が重要だと言われますが、準備しておかなければ動きません。私の町内では結局誰も避難しなかったのですが、それは真夜中に避難勧告、避難指示が発令されたことに加えて、危機感を持たなかったことが原因だと思われます。しかし先日、あと1時間降雨が続けば吉井川も決壊していたと聞き、避難のタイミングはいつだったのか!と不安になりました。未だに分かりません。

9日(月)以降、関与している会社から『休業補償は必要か?』『見舞金の支給は?』『非常災害時の残業や休日労働は?』など具体的な相談が寄せられるようになりました。緊急時の連絡網の見直し、従業員や取引先の被害状況の把握方法、被災従業員に対する支援体制など見直すべき課題も見つかりました。今後に向けて早急な対策を検討することになりました。

今回の甚大災害では、反省点が多かったと思います。個人、会社、行政のそれぞれが自己の弱点を知った今こそ、具体的な対策が可能になります。特に、行政やインフラを担う企業、情報提供する報道機関は、検証結果を発表して頂きたいと思います。『命を守る行動』が自己責任であるなら、対策を立てる行政や被災後の対応を担う生活直結型の企業が検証結果を公表することは、社会的責任ではないのでしょうか。